

城下町を歩く

久留米は福岡県南部の中心都市として、近・現代に大きく発展してきました。その影響もあり、一見すると現代的な建物が建ちならび、城下町の面影は失われてしまったかに思われます。しかしながら、注意深く町を歩いてみると、いろいろな場所に江戸時代のなごりを見出すことができます。それは、復元された武家屋敷や、久留米城の濠の痕跡、城下町の地割りの痕跡を示す道や溝であったりと様々です。また、城下町の旧町名が現在も残っている場所もあります。

江戸の昔を思い浮かべながら市内を散策してみると、たくさんの発見があるかもしれません。



▲御使者屋跡(城南町)



▲坂本繁二郎生家(京町)



▲旧三島家長屋門(篠山町)



▲旧柳川往還(日吉町)

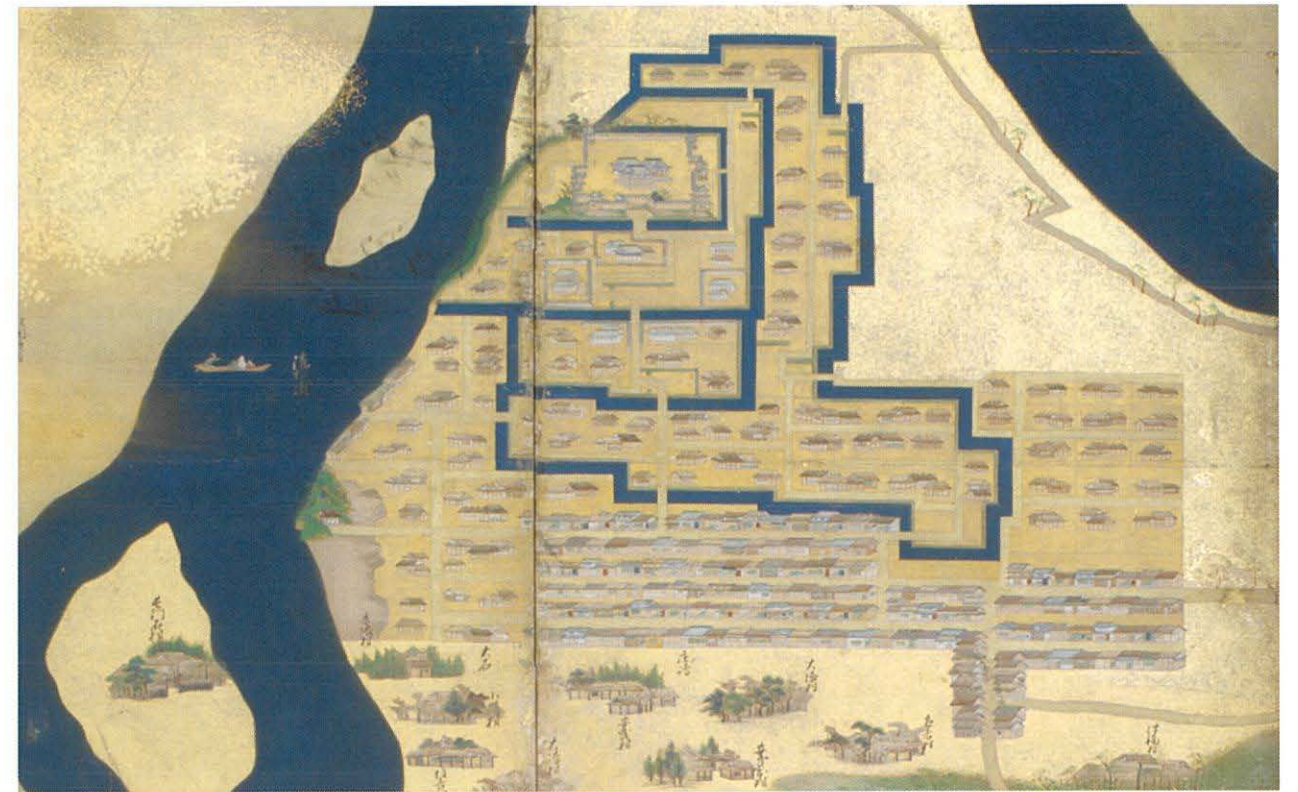


▲久留米城外濠の痕跡(篠山町・櫛原町)

発行機関：久留米市 市民文化部 文化財保護課 久留米市城南町15番地3 TEL.0942(30)9225 FAX.0942 30-9714
発行日：平成22年3月5日

歴史散歩

れきしさんぽ No.34



▲久留米藩領図屏風(部分)

久留米城下町

城下町 城下町とは領主の居城を中心に成立した都市です。城郭、武家屋敷地、町人屋敷地、寺社地などで構成されています。

久留米城下町とは元和7年(1621)、筑後北半の21万石を領した有馬家が建設した都市です。有馬家は先の領主であった毛利秀包、田中吉政・忠政代の久留米城下町を大規模に改変した城下町建設を行っています。入国した元和7年から正保3年(1646)頃までに城下町の骨格がほぼ完成しています。

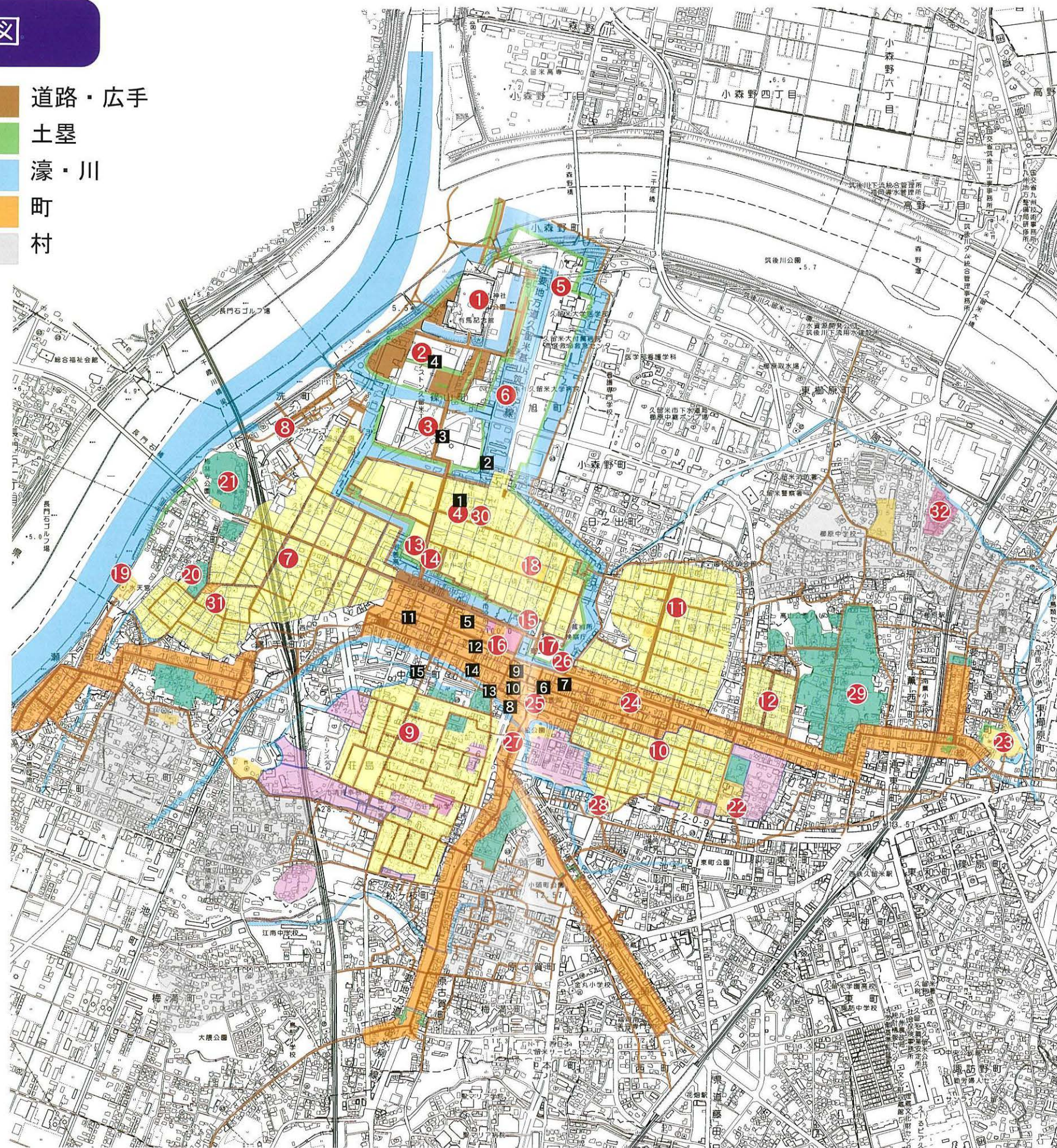
城の構造 久留米城は連郭式の城郭で本丸、二の丸、三の丸、外郭(四の丸)と郭が南北に繋がっており、本丸には政治の場である本丸御殿、二の丸は藩主御殿、三の丸は家老屋敷地、外郭には上級武士の屋敷地が設けられています。外濠を境にして東側に櫛原小路と十間屋敷、南に足軽などの軽輩が居住した荘島小路、西には中下級武士が居住した京隈小路などの侍屋敷町人地が配置されています。これらの侍屋敷地の間を縫って両替町、呉服町、通町、三本松町などの町人町が広がっていました。東端には寺町が建設されています。

交通の拠点 通町は東へ延び、十丁目口で宮ノ陣方面と府中(御井町)方面へと分かれ、宮ノ陣への道は参勤交代の道でした。府中への道は坊ノ津街道と日田への豊後街道と連絡していました。また、三本松町は柳川往還の始点で、原古賀町二丁目以小頭町と分岐し、この道は八女方面へとつながるなど、城下町は領内各地と交通のネットワークの拠点でした。この道を利用して領内の人が集い、物が集散され、城下町は政治の中心だけでなく、経済・文化のセンターでした。

城下町復元図

- 侍屋敷
- 上級武士の中・下屋敷
- 寺院
- 神社
- 藩施設
- 道路・広手
- 土塁
- 濠・川
- 町
- 村

- 1 本丸
- 2 二ノ丸
- 3 三ノ丸
- 4 外郭
- 5 柳原
- 6 筑前堀
- 7 京隈小路
- 8 洗切
- 9 庄島小路
- 10 十間屋敷
- 11 櫛原小路
- 12 鉄砲小路
- 13 明善堂
- 14 大手門
- 15 狩塚橋
- 16 御使者屋
- 17 長屋門
- 18 祇園社
- 19 水天宮
- 20 日輪寺
- 21 梅林寺
- 22 山王宮
- 23 五穀神社
- 24 通町
- 25 三本松町
- 26 札ノ辻
- 27 柳川往還
- 28 六ツ門
- 29 寺町
- 30 長屋門
- 31 坂本家
- 32 焰硝蔵



- 1 久留米城外郭跡 (くるめじょうそとぐるわあと)
久留米城の本丸、二ノ丸、三ノ丸の外側にあり上級侍の屋敷地だった。現在では大半が篠山町、城南町となっている。
- 2 久留米城三ノ丸濠跡 (くるめじょうさんのまるほりあと)
外郭と三ノ丸の間の濠跡で遊歩道の両側に往時の土手の痕跡が残る。
- 3 久留米城三ノ丸跡 (くるめじょうさんのまるあと)
濠で囲まれた方形の郭で御蔵屋敷、御蔵番屋敷と五名の家老屋敷が置かれていた。
- 4 久留米城二ノ丸跡 (くるめじょうの二のまるあと)
四方を濠で囲まれた台形状の郭で藩主が生活した二ノ丸御殿があった。
- 5 旧両替町 (りょうがえまち)
久留米城の南正面にあった町で西は亀屋町、東は外濠にかかる狩塚橋で城内と繋がる。井筒屋という両替商があったことに由来する町名で、二丁目まであった。享保11年(1726)の田代火事で、外濠沿いの北側の町屋が取り除かれ、広手となった。後、この広手に桜が植えられ桜馬場とよばれた。遺称地として両替町公園がある。市役所敷地から毛利秀包時代に建設されたキリシタン教会跡が確認されている。
- 6 旧三本松町 (さんぼんまつまち)
田中吉政代からある町で柳川往還沿いに三本の松があった事による町名。柳川往還の始点の町で久留米城下町の中心の一つ。三本松町と原古賀町の境は池町川である。
- 7 札ノ辻跡 (ふだのつじ)
通町筋と柳川往還の交差点に置かれた高札場で久留米領はここが道路起点である。各地の一里塚はここが起点。
- 8 旧鍛冶屋町 (かじやまち)
米屋町の南にあり、町並は東西に続き、南は池町川に沿う。丹波から初代藩主有馬豊氏に伝わってきた鍛冶が御用鍛冶となり住んだ町である。
- 9 旧片原町 (かたはらまち)
町は東西に延び、北は外濠に面する。町名は南側のみに町屋があったことに由来する。
- 10 旧米屋町 (こめやまち)
北は片原町、東は細工町に接し代表的な商として米屋があったことが、町名の由来。
- 11 旧築島町 (つきじままち)
両替町二丁目の南にあり町名は低湿地に盛土して島のように築きあげたことに由来する。
- 12 旧呉服町 (ごふくまち)
江戸時代初めにできた町で呉服関係の商人が多く住んでいた。発掘調査で正保2年(1645)銘の護摩札や衣類関係の木簡が出ており、呉服関係の商人の活動が知られる。
- 13 旧池町 (いけまち)
寛文元年(1661)に作られた町で、池町川の名のもとになった町で低湿地であったため、たびたび水害にあい享保11年に小頭町に移転した。池町川の名は芋掘川(おこながわ)と考えられている。
- 14 旧細工町 (さいくまち)
呉服町の南にあり、東は米屋町、西は今町に続き、南は池町川が流れる。細工職人が多く住んだことに由来。御用彫金師の金工家桂永寿(かつらえいじゅ)は当町出身という。
- 15 旧田町 (たまち)
南北の町並みで、南は庄島小路である。町名は西久留米村の「田の中」に由来する。